



新工場

- 本社所在地：長野県須坂市井上
- 事業概要：建築用鉄骨の設計加工・工事、機械式駐車場の設計・製造等
- 常時使用する従業員：66名（2024年10月期）
- 現在の売上高：34億円（同上）
- 法人番号：7100001005469
- Web：<https://uchida-st.co.jp/>

## 企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役  
内田茂

## 未来につながる「柱」をつくる

日々の行動に誠実であることを信念に「未来に誇れるものを世界へ届ける商社で在る」を目標としている。将来の姿と思い描いている商社という立ち位置を確立し売上高100億円企業を目指す。

## 売上高100億円実現の目標と課題

### 実現目標

2029年の売上高達成に向け前期時点以降で年率42.7%程度の成長を目指す。期間：2020年～ プロセス：物流倉庫等大型施設の需要を軸に取り出し年商70億円を維持できる体制を構築し、もう一段階の生産能力・効率向上で米軍基地施設、木鉄ハイブリッド施設、次世代立体駐車場といった強みを活かせる分野の受注を強化するなかで30億円/年を積み増しできる体制を構築する。

### 課題

これまで20年以上かけて鉄骨製造および鉄骨工事の協力企業を全国的に営業を掛けて確保していった。その後新型工場および自動ラインを軸に生産効率をアップさせ受注の幅を広げるべく注力している。課題はトランプ関税を要因とした物価高による建築価格の増加とこれによる業界の低迷。これに備えるには自社の強みを活かし競合優位性をさらに高めることで受注確保を図らなければならない。

## 売上高100億円実現に向けた具体的措置

### 目指す成長手段

ボトルネックとなっている梁工程について、現在別工場の梁工程を新工場に隣接した第2新工場を建設しそこに移設。さらに梁の1次加工ラインを新型加工機+パレットチェンジャー増設で自動化し、大幅なリードタイム低減を目論む。旧本社工場は塗装・検査ライン専用とし、その他はヤードとする。これにより効率的な一連のラインが構築され、生産効率の大幅な改善を目論む。

### 実施体制

鉄骨製造と工事が主体だったが、設計・生産管理部門を強化しこれにより工場他部門46名、設計・生産管理部門20名の人員構成である。工場は自動化・省人化で安全性を強化し属人的で高付加価値な部門に集中させる。またさらなる設計・生産管理部門の強化のための人員再配置を実施する。将来的に商社機能を本格化させるための営業部隊に人員を手厚くしていく意向がある。

※本宣言は企業自身はその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

## 自由記載（例：売上高100億円実現に向けた具体的措置）

2012年にHグレードを取得し受注案件の幅が広がり、これまでに取引のなかったゼネコン各社から受注を獲得できるようになった。有力な外注先を確保し足場を固め、一方で自社の内製拡大に努めた結果、近隣に3工場を設けるに至った。生産能力拡大を優先してきたが、横持の増加など生産効率は後回しになってきた。このなかで、首都圏中心に営業強化を続け中堅～大手ゼネコン等各社から信頼を得て、物流倉庫などの大型物件の建方一式の受注を得るまでに成長できた。この背景には主に二つの点を重視し投資を続けてきたことが挙げられる。一つ目は材料調達の低コスト化である。競争優位性確保のためベトナムに現地法人を設立、有力な協力工場を確保したことで国内へ輸送後でも10～15%程度低いコストで材料を調達できるルートを構築できた。二つ目は同規模や上位の同業者に比べて圧倒的に人数比率の高い設計部門である。機械式立体駐車場の製造で全国的に見ても上位に食い込む地位を築くに至ったが、最大の理由はここの分野で最も求められる製造過程での設計の優位性である。非常に専門性が求められるが、元々建築物に比べ価格の安い機械式立体駐車場は手を出したがる同業者はほとんどない。首都圏経済圏に食い込むため注力してきた結果、建築等他の案件でも生産設計の重要性に気づかれ、集中的に投資してきたところゼネコン各社からの信頼性で大きな優位性の獲得に至った。ここまでで物流倉庫を始めとした大型物件に機械式立体駐車場を安定的に受注する手法を軸に年商70億円を固める手立てを完了させた。

100億円まで残り30億円を固める方策を考慮してきた。ターゲットとして3つを軸とできる見通しをしている。これらは現在の体制では利幅の確保に課題がある。鉄骨の加工は現在のところベトナムルートが最も安価だが、問題点は輸送に時間を要するため国内加工に比べタイムリーな対応に劣る。設計変更等あれば国内の生産に割り込むかたちになり不採算となる。ベトナムルートでの調達を増やし有効利用する傍ら、国内の加工部分の生産効率を上げて低コスト化し競争力を高める。本社新工場の建物に隣接させて工場を増設し、内部に現在別工場で生産している梁の加工を集約する。同時に梁の1次加工用の自動機械を増築部分に増設する。梁の工程は細かな造作が多く溶接ロボットの使用に限られる。自動化は一次加工部分の効果が大きい。これらにより生産コストを改善し、現状では利幅に不安のある3事業の取込を図る。次世代型立体駐車場、米軍国内基地施設、木鉄ハイブリッド建造物である。

## 売上高推移



- 事業1 物流倉庫・都心再開発等建造物等
- 事業2 従来型立体駐車場
- 事業3 次世代型立体駐車場
- 事業4 国内米軍基地施設
- 事業5 木鉄ハイブリッド施設



左上：物流倉庫 右上：次世代型立駐 左下：米軍施設 右下：木鉄HD施設